

中高一貫学校の生徒に負けないために

志成館は原則的に、「中高一貫の学校に通う必要はない」という方針と取り続けています。それにはいくつもの理由がありますので、以下に羅列します。

① **まだ医学的に見て「頭脳＝脳みそ」が出来上がっていない段階では脳に負担をかけすぎないことが必要であるという判断。**

※頭脳をつくるのには12年ほどかかり、人体は幼少期には脳の形成のために恐るべきエネルギーを使っています。(これはきちんとした医学的な見解です。)ですから頭脳が出来上がってから、学習に励んだ方が、長い人生を生き抜くには好ましいという判断をしています。

※中学生の後半から、男の子は「ひげ」が生えてきたりして男らしい顔つきになり、女の子はとも色っぽくなるのですが、この時には「すでに脳みそは出来上がっている」という体からのメッセージなので、これを目安にして、この時から無理をしてでも学業に専心するべきであるという判断をしています。

② **久留米大学附設高校から東京大学に進学した館長の友人の以下のような内容の言葉が、このような「エリート中学」や「エリート高校」と呼ばれている生徒たちの「真の学校生活」を言い表わしているという確信もあります。**

※「小学生や中学生の時期での天才や秀才と呼ばれる人たちは、長期的に見ると、それ程の価値はない。久留米附設中学や高校などには、屍が累々(しかばねがるいりい)としている(つまり、小学生の時に成績の良かった子供たちが、中学や高校で学力が伸びなくなって、学業からドロップアウトして、悲惨な状態になっている人がたくさんいるということ)。」

※志成館の館長は、この極度に高等な教育を受けたために、自信を喪失してしまった子供たちは、普通の中学で学んでいて、学区でトップの公立高校を目指しておけば、もっと高校や大学で伸びたであろうと考えています。

③ **20年以上も前に新聞に載った記事なのですが、中高一貫高校で学んでいる生徒は、高校2年時で成績が伸びなくなる。それは、小学校からの無理がたたって、もうゴムが伸び切ったような頭脳になっているからであるというものです。これは統計的な資料によるものであり、信ぴょう性が高いものです。**

※志成館では、このデータが新聞に載った時から中高一貫学校に通うための、小学校低学年からの受験の指導はやめました。他方で、普通の公立学校で学年トップに立てるような指導はしています。

※しかし、小学校から頑張ってきている生徒には、基礎学力があり、どんなに脳みそが疲れていると言っても、私立の名門校とされる早稲田大学や慶応大学には進学できることが多い。一つには科目が3科目と少なくなることも挙げられるだろう。

※しかし早稲田や慶応や南山や同志社などは、ごく普通の高校からでも合格することは可能である。この場合は、3科目なので、私立大学をはじめから目指している生徒ほど有利になる。

④ **東京大学の方針として、私立の中高一貫校からの入学は好ましくない。普通の公立高校から進学してほしいという要請ないし希望というものがあるから。**

※このこともNHKのテレビで放映されています。小宮山宏総長の頃の比較的最近の事ですが、ご存知でしたか？

※東京大学に入学した時点で、頭脳がゴムのように伸び切っており、大学以降で学力が伸びないことがその主たる理由です。

※詰め込み式の学習をしているので、もうそれ以上頭に入らないということです。

※それに、小学生の時から友達と遊ぶことも我慢し、勉強をするために高額な塾の費用や学校の費用だけでなく下宿などの費用を払っているの、その投資した費用の分の回収を図る必要があり、そのためには、真の学習をする事よりも、お金になる学習や安定した大手の企業に入るか高級官僚になることしか考えていない、保守的な学生が多いことなどが理由なのでしょう。

※政府の無策が主たる原因なのでしょうが、東京大学や京都大学の世界でのランキングが大きく低下しているのも、このような学生が多いことの裏返しであると感じます。

※館長がこのことに関連して、「誤ったエリート教育をさせる日本の学習塾に責任がある」といつも述べているのは、このような塾の無責任さを指摘しているのです。

※学校には立派な先生がたくさんいるはずなのに、(最近はこちらも不確かになっているのですが、) ビジネスマンみたいな志成館の経営者や講師が、子供たちや、日本の未来を壊しているという見解です。

⑤ 館長が18歳の福岡高校当時の先生が、「高校1年生の4月から、毎日4時間学習すれば、誰でも東大に合格できる」と話されているのを覚えており、これは今でも正しい学習指導であると確信していること。

※つまり、小学生の時から焦って学習しないでも、中学で基礎を固め、公庫でしっかりと自分から進んで学習できれば、日本中にある、公立高校からでも東京大学や京都大学に合格できるということです。

※志成館というごくありふれた普通の塾からも、特に難易度の高い指導もしていないのに、高校に入って、自分で頑張って、東京大学や京都大学に合格した生徒が実際にいるのですから。

※尚東京大学京都大学と連呼(?)していますが(笑)、このような日本が代表する大学の世界でのランキングが相当に低い現実を把握したうえで、それなら初めから外国の大学に進学しようとか、ないし日本尾大学を卒業した後で、外国の大学院に進学しようという選択肢を考えるべきでしょう。

※但し、現在の世界の大学ランキングも、新自由主義的な価値観にとらわれたアメリカの評価基準に従っていると考えられますので、(つまりアメリカ合衆国は、お金儲けができない学問や、お金儲けを目的としない大学は「クソ大学である」と評価しているのですから、) 気にせずに、自分の信じる教授が教えてくれる大学を目指して、大学を選択すべきでしょう。

⑥ そもそも志成館は英才教育をしていません。自分はエリートになる、エリートであるという感覚で育つと、どうしても傲慢な人間になる傾向があり、そのことは他者に不満をいだかせる性格となるばかりではなく、本人のその意思で不幸せになることが多いという確信があるからです。

※この点に関しましては、「館長には強い偏見がある」と批判されても、反論はしません。

⑦ すっと以前に志成館で教えてくれた先生は、福岡高校卒業後4年間浪人して九州大学の医学部に入学されたつわものなのですが、とても素晴らしい人格者であったことに敬意を表し、医学部などに進みたかったら、何年浪人してもよいのであるという考えを持っている事。

※館長は、長い間司法試験の勉強をしていたものの、結局は合格できなかったのですが、同じような友達で、30歳過ぎて弁護士になられて、素晴らしい仕事をしている人を何人も知っており、そのことと、東京大への進学や医学部への進学は、同じように「時間をかけてもかまわないという発想をしています。

※最近のことはわかりませんが、ずっと以前から、福岡県での学閥としての力をもっともある、県立修猷館高校の校長先生は、高校1年生の入学式の時に「1年くらいは浪人してもよいから、自分の

希望する大学目指して頑張りなさい」と毎年話されていたということを聞いてきたのですが、そのことは暗に「ラサールや久留米附設の高校生には、浪人した時点前に追い越せばよい」というメッセージであると、私自身が受け取っていたということもあります。

⑧ 現役での難易度の高い大学への合格にこだわっていても、また東京大学や京都大学などの学園にこだわっていたとしても、結局はその後の人生は、本人の人格に関わってくるので、この点からも、中高一貫学校で勉強するメリットはないという判断です。

※裏を返せば、東大に進学した場合でも、みじめな人生を送っている人は多いということです。

⑨ 中高一貫高校への進学を目指す、塾への送迎やその他で保護者の負担が大きく、その割には子供から報われることが少ないという現実の世界への感傷があります。

※とても美しいメロディーで人気があるスコットランド民謡「ロンドンデリーエア＝ダニーボーイ」の歌詞を調べてみませんか。この曲は成長する子供への、母からの愛情の曲なのですが、歌詞の中に「弱き母の影も、雄々しきなれ（子供）には見えず」というものがあります。高校時代にこの曲を歌いながら、できることなら父母の近くに住みたいと思い、一方でいろいろな争いもし、他方で何一つ期待には沿えなかったけれど、父母が死ぬまで、近くにおいて親孝行をしたと思っている私には、少なくともこの曲の悲しさは避けることができたのかもしれないという感傷と、そのような生き方もひとつの人生であるという、自分の人生からの叫びがあるということ。

※館長の友人は、工業高校卒業という資格で就職したのですが、その子供には、塾に大金をかけて、中高一貫学校で学ばせました。結局は私立の慶応大学に進学したのですが、その教育過程のなかでいつも貧しい食事をしながら、子供に期待をかけて育てているのを見ると、とても哀れに思えたことがあります。もちろん親の愛というものはそんなものなのでしょうが、しかし過度の愛情や期待は子供にとって大きな不幸であると言えるのではないのでしょうか。

※そして、このように、親が愛しすぎ、気ままに勉強した人間は、いつまでたっても親に甘える傾向があり、親は死ぬまで子供の面倒を見なくてはならないことになるという悲劇的な現実を、私自身が何度も見てきていることもあります。そうであるなら、たとえお金がたくさんあったとしても、ごく普通の公立の高校や国立の大学を目指して、一般の人間と同じように、できるだけお金をかけないでというか、親も無理をしないように、家族で助け合って、公立を目指す方が妥当ではないかという考えを館長が持っている事もあります。

※この部分も、森館長の誤解と偏見に満ちた考えであると批判されてもすなおに受け容れるつもりです。そうでない人もたくさんいますので。

⑩ 教育のあるべき姿をもう一度考える時が来ています。

※「中高一貫の学校では、効率的な学習指導ができ、それが故にこのような学校に行かせるのは素晴らしいことである。」という見解が間違っているとは思いません。

※しかしよく考えてみてください、彼らは頭が良いのではなく、学習という競争で、情熱があるという部分は素晴らしいことなのですが、大金をはたいて「抜け駆けをして勝っているだけである」というとらえ方も、あながち間違っていないのではないのでしょうか。そのような子供たちは、大人になっても抜け駆けをしがちになるのではないのでしょうか。

※中高一貫高校で勝ち抜いてきた人たちの多くが、現在の日本の指導者の多くであるということにはわかってはいます。しかし、彼らエリートたちがけん引してきた日本の今の姿が、いかにひどいものであるかを省みてください。現在では、「与党」という強いグループに属する政治家の多くの指導者が、国民の幸せよりも、自分自身の幸せを求めているだけではありませんか。教育のどこが間違ってきたのかは、おのずからわかっていただけのことではないのでしょうか。

※私はどこの政党であれ、「野党」の人たちを尊敬しています。なぜなら少数の立場にいと、自分たちが得することはあまりありません。それでも政治家を続けるということは、よほどの国民思いの、優しい政治での闘志であると、単純に考えているからです。

【提案】

別のところでも述べているのですが、上掲の問題点を解決する手段としては、東京大学などを解体する必要があるでしょう。しかしそんなことができるはずもありません。それなら、各都道府県にある国立大学の学生を、その都道府県の人口比率などに応じて、47都道府県にある国立大学から均等に国家公務員を採用することが効果的であると思います。過疎過密の問題の解決についても、格差問題の解消問題についても、日本の美しい環境の保持という視点からも、東京大学などからの公務員の採用数を減らすことが肝要であり、そうすれば「今よりもはるかにまし」な政治が出来るようになり、誤ったエリート観がなくなり、日本は立ち直るだろうと思います。

⑩ その他いくつかの理由がありますが、これらのことから、志成館では「成績は年齢に対応した形で伸びていくのが好ましい」という判断をし、小学生から慌ててあせって中高一貫学校に進学する必要も利益もないという方針を守ってきているのです。

※だから志成館は生徒が増えることがなかったのかもしれませんが、成績が多い生徒が集まらないのかもしれませんが。いつでも貧乏です。その意味では、経営者としてのビジネスセンスはまったくと言ってよいほどないのかもしれませんが。父母がいつも嘆いていましたが（笑）。

※しかしそんなことはどうでもよいのです。私は「教育者」であって、営利を目的とする「ビジネスマン」ではないのですから。

中高一貫の学校に進学した生徒に負けないために

それでは中高一貫の生徒に負けないためには何をすべきでしょうか、以下列挙します。大変なことではありません。ほんの少しの努力で足りるのです。わかっているもなかなかできないのですが。（笑）。

① まずもって、「焦る必要はない、高校の3年生の夏までに成績で追いつき追い越せばよいだけであるという信念をもつ」こと。

② 高校に入ったら、授業や宿題以外に、予習や知識の確認や暗記のために、1年生の4月1日から毎日4時間以上学習するという決意を持って実行すること。高校1年生の時に遊んでいたり、部活に専念していて、2年生になって毎日6時間、3年生になって毎日8時間してもだめです。あくまでも1年生の4月から始める必要があるのです。

③ 高校の学習は、高校1年生の1学期が勝負なのです。ここをうまく乗り切れれば、国立大学一般や東京大学への道が開けるのです。

※実際に東京大学に進学している人は、このころに具体的に東京大学の事を考えはじめており、小学生や中学生の時から、親子で力んでいる生徒はなかなか届かないというのが悲しい現実です。

④ 高校以降で中高一貫学校の生徒に負けないために、中学時代に、以下の学習は終わっておいて下さい。

(イ) 英語の文法の基本を終えておくこと。具体的にはVision Quest (啓林館書店のヴィジョン・クエスト) の緑色のページを完全に理解し終えている事。

(薄い緑色のページの文法内容は、基本であり、実は中学で終わっており、志成館のSクラス生にはここまで教えています。薄い濃青色のページは、中学生にとってはレベルが高く、高校で学んで間に合う、大学受験用の内容です)

※尚、「ジュンク堂の鬼」を自認する志成館館長森は、ロイヤル英文法などと比較したうえで、「ヴィジョン・クエスト」が最高の文法書であると判断しています。とにかくわかりやすいのです。(喜)。

(ロ) 「国語の便覧」を隅々まで読みなおかつ暗記してしまうこと。挿入されている「写真」も「絵」も「文章」も「色」もすべて覚えること。中学生に配布している、志成館の基本教材の事である。もしこれができたら、あなたは日本人としての誇りが持て、日本社会での真の誇り高いエリートへの道を歩めるようになります。

(ハ) 英単語は、中学2年生から本気を出しはじめて、1800単語に届くようにしておいてください。ターゲット1800で十分です。動詞を覚える際に、自動詞と他動詞で、それぞれ別の基本文を、文型を意識して、暗記しておくように。また、単語を覚えることが苦手な人は、簡単な例文と一緒に覚えるようにしてください。

(ニ) 社会は、「アドバンスの歴史」をしっかりと読んで、これも「絵」も「写真」も「年代」も(館長が作成した年代暗記法参照)「人物」や「場所」や「図」も覚えておくこと。尚、歴史の知識のセンスを養うためには、兵庫の「灘中学」が使っている「歴史教科書」を流しておくように。

(ホ) 理科は、原理原則までがしっかりと書いてある、参考書を読んでおく必要がある。但し、中学の理科ができたからと言って高校の理科が簡単にわかるはずもない。

(ヘ) 数学に関しては、中学卒業時に、中高一貫の同じ学年の生徒には、学力や進度の面で大幅に負けている。それでもかまわない。高校に入ってから、**数学で負けないための重要なポイントが2つある**ことは、志成館生ならわかっているよね。館長が年に数十回も話していることだから。ここには企業秘密ということで、書きません。とはいっても、別のところにきちんと書いているので、探してくださいね(笑)。

⑤ 以上がもし順調に出来ているなら、中学時代は部活をしても、中高一貫高校の友達に負けることはない。ただ望ましいのは、もし余裕があれば、志成館が勧める(つまり、このホームページに載っているような)学校で習う内容以外の書物を、手に取ってみる事です。文字通り手に取るだけでよいのです。(ということは、実際に読むことは必ずしも必要ではないことです。)

(イ) そして何よりも、**館長の話**を真剣に聞くことである。館長の話は、国語そして英語の長文に書いてある入試の文章とかなり重複しているからです。

(ロ) 昔、館長が教えに行っていた早良区にあった塾(今はもうない)では、1クラス30人全員を修猷館に合格させていたのですが、その時の国語は、有名な公立高校の現役の先生がこっそりと教えており、その内容は、朝日新聞の「天声人語」の解説をしているだけの授業でした。意味が分かりますか?**じっくりと知らないことを考えさせる**授業をしていたのです。もちろんこの中から東京大学に何人も合格していました。ですから、館長は東京大学が難関大学ではないことを知っているのです。それに安永先

生の弟さんも、近藤先生の弟さんも、森の奥さんの兄さんも、東京大学出身なので、感覚的に東大合格がイメージできるのです。確かに館長よりはるかに頭脳明晰であるということは明白なのですが。

(ハ) 上に述べたことから推測できることと思いますが、あと必要とされることは、**良い本に接し、良い映画を見ること、良い音楽に接することで十分**ということになると思います。良いですか「良い」という条件が付いていますから、注意してください。

(ニ) つまり、**自分をスポイルする＝ダメにするような情報を、自分に近づけてはならない**ということです。ネットでどんな情報も入手できいつでもどこでも他者と接することができる時代です。この点での戦いはとても厳しいのです。ある程度は自分の殻に閉じこもる必要があるのです。

(ホ) 従って、人生を謳歌し、**はじけるのは大学生になってから**と肝に銘じて、耐え忍んでください。

⑥ とにかく国語が大切であり、説明的文章の内容把握や、文学的文章の筆者の気持ちを深く理解する努力が必要です。

以上6項目を守ることができて、なおかつ定期テストで平均92点以上を維持することができていれば、高校に入って頑張れば、中高一貫学校の生徒に負けるわけがないのです。高校に入学した時点での「余力＝潜在的なパワー」は、普通の中学出身者であるあなた達の方があられるのですから。

※ 尚、上掲の書籍は、志成館のホームページの左の欄の、「中学生の教材」や「高校生の教材」の箇所に、表紙を貼り受けています。表紙が変わっているものもあります。

※ 「教材」に関して言えること、ないし「学習内容」に関して言えることは、基本的には50年前の、館長が高校や大学入試で勉強していたこととあまり変わらないということです。ですから今でも先生ができるのです(笑)。

※ 次いでながら、広く「学問」の分野も、あまり変わらないし、退歩している部分もたくさんあります。但し、技術的な側面では、人類は長足の進歩を遂げています。

2020年5月17日 志成館 森 英行

この後に「**勝者の心理学**」を載せています。

世界最高のゴルファー、**E・タイガー・ウッズ**の心理を述べた著作を、館長が「学習」に置き換えて、要点を書き直したものです。

「一事が万事」はないですが、**スポーツでも学習でも、勝つために必要な「心構え」は、あまり変わりません。**

人生における今後の数々の戦いに勝利するために、丁寧に読んで下さい。

The Psychology of the Winner (「勝利者」のための心理学)

1 常に冷静さを忘れない

- ① 学習中は自分の殻の中に閉じこもり周囲の雑音を消す天才となれ。
- ② どんな状況でも「普段の気持ちで」冷静に頭を働かせ続けること。
- ③ 周囲は言葉巧みに君の学力が向上することを無意識のうちに時には意識的につぶしかかるはずだからつぶされないように。

2 自信の量を減らさない

- ① 同じ状況で同じ学力レベルの人間が試験で戦ったときは自信の多いほうが必ず勝つ。
- ② 学習時間や理解度に不安があってもその不安や学習量の不十分さを絶対に口に出してはいけない。
- ③ 「わからない」「できない」などの独り言やぼやきが君の不安を増幅し自信を粉々に砕いてしまう。
- ④ 言葉はそのときの心理状態を表すので自滅するような言葉を出してはいけない。

3 不安があっても動揺しない

- ① 心に不安がよぎっても自信がある言葉を吐くことができるしそうすべきである。
- ② 「よい点を取る」「授業はよくわかる」「学力が日々向上している」というよいイメージだけを描くのである。
- ③ 受験勉強や定期テストの時のプレッシャーに対しては「勉強とはこんなもんだ」とそのまま受け入れて淡々と学習しプレッシャーをうまく手なずけることである。
- ④ 試験日やテスト前に精神的な不安を顔や態度に出してはいけない。

4 惨めな体験は次に生かせばよい

- ① テストで失敗があったからといって決して落胆してはいけない。
- ② 失敗は次に生かせばよいのである。
- ③ 君たちの年齢には「失敗する権利がある」のだ。
- ④ もっとも同じ失敗を繰り返していると「猿の脳みそ程度だ」といわれても仕方ない。

5 好調の波は持続するように心がける

- ① 調子がよいときはスポーツで言う「ゾーン」や「トランス」の状態を持続するように心がけること。

【トランス】

- ① 何かに心が憑かれた状態。
- ② 心に引かかるものが何もなく、あとから考えると誰かにコントロールされていたかのような心理状態。(・・・で学習に集中すること)

【ゾーン】

- ① まるで神が自分の中に宿ったように目の前の学習に没頭でき、最高の集中力が発揮でき、最高の結果が出る状態。(・・・で学習に集中すること)
- ② 自分の欲や希望が心の前面にあるときはこの体験は出来ない。
- ③ トランスと同じようにすべての動作が自動的にコントロールされているように感じる状態。
- ④ この感覚を手に入れる訓練方法など存在しない。

6 テストのときは最後まで決してあきらめない。

- ① テストのときに「もうわからない」「無理だ」と途中で解くのをやめるのは簡単である。しかしそのような行為は次のテストに伝染する。
- ② あきらめの連鎖が続いたらその生徒の成績が向上することは永遠にありえない。
- ③ テスト結果が最悪だからといって解答用紙を粗末に扱ってはいけぬ。解答用紙に責任はないからである。

7 テスト前には自分でした学習範囲についてはすべての点が取れるように入念に準備をすること。

- ① 頭を使ってテスト前にした勉強の量を点検するのである。
- ② 自分がした勉強なりの点は必ず取るという「心の準備」もぬかりがなくすることである。

8 自分の点数の目安を作る＝自分の次の目標点となる点を取っている人を当面のライバルとする。

- ① ライバルの一人目は今の自分の学力にあった身近なライバルである。
- ② 二人目のライバルには「将来の夢の実現をさせてくれるような偉大な人物を」を選ぶこと。
- ③ ライバルはあくまでも「点数の基準となる人間」くらいに考えて「ライバルのとっている点を取りあえず超えよう」くらいに考えること。
- ④ ライバルとして具体的な人間（たとえば3組の～君とかなんとか近所に住む～さん）を決めて、その人から勝つのだという意識は持たないこと。なぜなら自分の一生をその人と比べてしまい自分の幸せさえ理解できない不幸な人生になる可能性があるからである。

9 一緒に学力の向上を目指して競い合っている友達とはいつも温かい心で接しよう。

- ① たとえクラスや志望校についての「目の上のたんこぶ」みたいに目障りに感じられるライバルであってもそのような人たちともいつも温かい心をもって接しよう。
- ② よい点を取ったときこそ有頂天になって自慢せず謙虚に振舞い周囲の人への配慮に忘れないことである。
- ③ 「実るほど頭をたれる稲穂かな」。手ごわい人間だとライバルから思われても、ライバルから憎まれないような得をする人格をつくるのである。
- ④ **ライバルを味方にしなければならない、決して敵にしてはいけない。**

10 ピンチを巻き返すイメージトレーニングのためのヒント。

- ① 「人間というものは概して自分の思い描いたとおりになるものだ」

心理学者ウイリアム・ジェームズ

- ② 「人間の脳は実際に起こったことと、鮮明に頭脳に描いたこととの区別がつかない。」

心理学者マックス・マルツ

11 プレッシャーをはねのける

- ① どんな状況でも同じように実力が出せるように訓練しておくこと。
- ② 一流高校や一流大学を受験しているときも普段定期テストを受けるときも受験者の心理はそんなに隔たってはいないと認識しておくこと。
- ③ **「緊張していたから実力が出せなかった」「テストのときに上がってしまった」などという言葉は、「自分には本当の学力が身につけていなかったからうまくいかなかった」という言葉に置き換えるべきである。**
- ④ 身につくまで徹底的に学習するべきである。

12 精神構造

- ① 学力向上を妨げているものの中に自分自身の「精神構造」があることを知ろう。
- ② よい点数が取れたときには、「今日は上出来だ」と考えるのではなく、「ようやく自分の実力が出てきた」と解するべきである。

13 表情

- ① 本当に学力がある人や努力をした人はプレッシャーがあるほどすばらしい結果が出せる。
- ② それは「心の強さ」が他のライバルを圧倒しているからと考えられる。
- ③ 心の強さが点数を左右しているのである。
- ④ 心の強さとはすなわち心の平静さである。
- ⑤ 繰り返しになるが、強い心を維持するためにはどんなときにも表情を変えないことが必要である。

14 目標よりもプロセス重視

- ① 真の天才とは何千回、何万回の単調な繰り返しのメモリーを脳と体の奥底に、深くかつ精密に刻み込んだ稀有の努力家のことである。
- ② 目標が立ったら成功と失敗の二つしかない。
- ③ 目標を立てて実現しなかったら改めて目標を立て変えることである。
- ④ 一流といわれるすべての人は結果よりもプロセスを優先する。一流といわれる人の中には努力は誰にも負けないようにするが、結果には余りこだわらない人が多いということを知っておこう。
- ⑤ 勉強をする段階では自分の意思で自由にコントロールできるが、試験での出題箇所には運不運もあるからである。
- ⑥ 最善の努力をして勉強を楽しんで結果に期待することが学力向上の秘訣である。
- ⑦ 普段の学習の始め方や方法について自分なりの形を作るのがよい。
- ⑧ ゆったりとした気持ちを持って自信満々に学習に入るのである。

15 絶対合格するための条件

- ① 成績を上げるために最も大切なことは「目標を立てること」と「家庭での学習方法」にある。
- ② 学習でもスポーツでもビジネスでもあらゆる成功はこつこつと時間をかけたプロセスの積み上げによってなされたものである。
- ③ スポーツや音楽の分野でもチャンピオンになるためには最低10年はかかると考えるべきであろう。

16 もっと好きになる

- ① 「人間は生まれたとき、母の胎内から才能を運んできた」という考えは断固として認めない。
- ② その分野で成功するためには才能よりもその仕事を好きになって情熱を傾けることが必要である。

17 粘り強さ

- ① 自分の今やっている学習は人生の一部だとしっかり考えて「粘り強く」努力するべきである。
- ② 粘り強さとは「決してあきらめない心」である。

18 「攻め」と「守り」

- ① 学習でも状況を見て攻めるべきか守るべきかの判断を適切にすることが必要である。たとえばすべてを犠牲にしても勉強を優先すべきだという判断をしたときは即座に行動するべきである。部活や人付き合いがその例である。
- ② 細かい点ばかり気にして学習していたら本当のしっかりした学力は身につかない。

19 集中力

① 「人間は集中する習慣をつけることにより、心の集中力という筋肉を発達させることが出来る。」

心理学者ダニエル・ゴールドマン

② 「ひとつのことに本当に没頭しておれば自分の回りのことなどぜんぜん気にならないよ。」

F1レーサー マリオ・アンドレッティ

20 プラス思考で

① **プレッシャーとは本来存在しないもの。**

② **自分で勝手に作り上げた亡霊のようなものである。**

③ 緊張を恐怖と考える人は敗北者。自ら自分自身をより困難な状況に追い込んでゆくタイプ。

⑤ 緊張を自分が向上するためのチャンスと考える人が勝利者。

⑥ **厳しい状況になればなるほどファイトが沸いてこなければならぬ。**

⑦ 今日うまく行かなくても人生が終わるわけではないと考えてすべてのことに挑むべきである。

⑧ ものの考え方が勝敗を分けるのである。

21 ピンチをチャンスに変える

① **悪いことが起こったら、次にはよいことが起こるきっかけであると考えよう。**

② 幸運の神様はすべての人に公平である。

22 自信を心に刷り込む

① 自信とは自己実現のエネルギーみたいなものである。

② 多くの受験者はテスト前から不合格の時の言い訳を考えている。

③ これでは自分には自信がありませんよと宣言しているようなもので、とても上達は望めない。

④ 成績向上にとって最も大切な資質は自信を持つことであろう。

⑤ 自信はちょっとした失敗ですぐに壊れがちである。日々の努力で簡単には壊れないような自信を身につけなければならない。

⑥ 自信を深めるためにはすべてのことを丁寧にしかも注意深く実行してゆかねばならない。

⑦ 心に込められた自信の大きさが結果を左右する。

23 学習では正攻法に徹する

① どんなことでも正しい選択が大切である。

② 道を誤れば遭難する。近道には危険が多すぎる。

③ **正統派の理論をマスターすることが大切。**これこそが上達への近道である。

24 宣伝効果

① 時には大言壮語をはいて自分をその気にさせて勢いづかせることもよからう。

② いつもそうしているとビッグマウスと揶揄（ヤユ）されるだろうが。

25 勝利者の鉄則

① **勝者はことが起こるように“する”。**

② 敗者はことが起こるに“任せる”。

③ 人生という車で運転するのが勝者、助手席に座るのが敗者。

④ すべて自分で決めるという態度が成功を呼び込む。

⑤ **自分のなした決断と結果の全責任を自分でとることである。**

26 独創型と学習型

① 自分が独創型と思うなら基本に立ち返って学習しなおすべきである。きっと悪い癖がついて

いるだろうから。

② 学習型なら応用の欠如が上達の妨げになっていることが多い。

27 うまくいかないときが上達のチャンス

① あらゆる角度から自分を見つめてみる。

② そして問題をひとつずつ解決してゆくというのが向上心である。

③ 停滞が続くなら発想を変えることも大切。

④ こうしなければならぬと決め付けたときに限界が見えてくる。

2005年11月22日

付箋紙でピックアップしていた箇所を整理

2007年3月27日

一部訂正修正

2010年8月3日

学習用に編集しなおし